

平成 28 年 8 月 18 日

北栄町議会議員 飯田 正 征

第 2 回市町村議会議員セミナー研修報告書

1. 日 時	平成 28 年 8 月 4 日～5 日 (1 泊 2 日)
2. 場 所	全国市町村国際文化研修所
3. 内 容	<p>1. 医療機関、住民と共に地域医療を支える取り組みについて 自治医科大学地域医療学センター長 梶井英治 住民の健康問題のみならず生活の質にも注目しながら、 住民一人ひとりに寄り添って支援していく医療活動を行う には住民が参加する地域医療づくりが大切。 ○地域医療を守り育てることへの住民の理解と行動 ○住民、行政、医療関係者の協働による地域医療づくり ○地域生活者としての行政職員のリーダーシップ力 地域が一丸となって地域の課題を解決し、暮らし良い地域 を創っていく取り組みの重要なことを学んだ。</p> <p>2. 地域まるごとケア (医療の現場から) 東近江市永源寺診療所所長 花戸貴司 在宅医療は医師一人ではできない 医師、看護師、薬剤師リハビリスタッフ、ホームヘルパー、 デイサービススタッフ、ケアマネジャー、行政、家族、ご近 所の方々などの多職種連携が必要。 患者さんが本当に望んでいることは何かを把握することが 重要。 普段から「どのような場所で誰と生活するか、どのような 治療や療養を希望するか」をきちんと家族と話し合ってお くことが大切。</p> <p>3. 介護予防の公的責任と自治体 埼玉県和光市保健福祉部部長 東内京一 ① 和光市では、高齢者の個別の課題及び地域の課題を把 握するのに記名によるアンケートを実施、現状にあっ た取り組みを行っている。 アンケートを回収できなかった人が問題で、未回収者を 民生委員、認知症サポーターが訪問し対応している</p>

アンケートをもとに推進を図っている

② 和光市の地域包括ケアシステム

別紙 1

第 6 期基本方針により自立支援の一層の推進を図っている 別紙 2

4. 地域を健康にするまちづくり

筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医療専攻教授
久野譜也

生活習慣病の克服は、国民が生活習慣に於いて、特に運動と食事をコントロールすることが出来れば一定の成果が得られる。75 歳以上の後期高齢者が生き生きとした日常を送れるようにするかが重要な課題。

これらの課題を解決するためには複数の政策の組み合わせが求められる。

予防施策、例えば科学的根拠を基盤とした運動と食事による健康サービスを IT 化が生活習慣病の予防効果および医療費の抑制効果を得ている。

(見附市では年間一人 10 万円)

歩いて暮らせるまちを創る為には、市民が便利さだけを追求しすぎない生活を許容できる。

それをサポートするために

- ① 社会参加 (外出) 出来る場作り (賑わいづくり)
- ② 自助を強める施策 (インセンティブとリテラシー)
- ③ 快適な歩行空間整備
- ④ 過度な車依存から脱却を支援する公共交通の再整備
- ⑤ まちの集約化